

月例報告書 1 月

酒向悠斗

曇りで太陽の見えない初日の出



新年が明け、2024 年はフランスでスタートした。年越しを海外で行ったのは初めてだったので新鮮な感じがする。フランスでは新年が明けると花火が上がり、隣の部屋からはお酒を開けて盛り上がる声が聞こえる。日本の落ち着いた年明けとは違い派手に盛り上がっているなといった印象を受けた。私はというと、学校は冬休みで休校、お店も新年で閉まっているため行く当てもない、という

ことで日本にいた頃同様に静かに家で過ごしていた。年越しそばでも食べようと、アジアショップで買い置きしておいたそばを食べ、課題を行いながらの年越しをする。フランスでは福袋という概念も無く、新春セールなるものも無さそうなので代わりに電子書籍を爆買いしてしまった。家でゆっくり過ごしながらか本でも読もうかなと思う。

さてそんな幕開けから始まった一月だがあっという間に時が過ぎ去り、もう二月が目前となった。時の速さを感じつつ、留学生活もあと一ヵ月かと寂しい気持ちが込み上げてきているこの頃。しかし哀愁に浸ってしみじみしている、そんな悠長な時間は無い。日本の大学同様プロジェクトは佳境に入ってきており課題の多さと言ったらなんのその。徹夜しながら課題を進めるなど、体を壊しそうな日々を送っている。フランス生活はあと一ヵ月、しかしこの課題地獄から解放されるのも一か月後。まだフランスにいたい、しかし早く課題地獄から解放されたいという気持ちが日々揺れ動いている。一応報告として今のところは元気である。

最終課題に向けてプロジェクトたちは佳境に入ってきた。約 3 か月間の間練り上げ、話し合いを重ねてきたアイデアたちをまとめ上げファイナルコンセプトとしていく作業を行う。そこから 3D に起こしたり、プレゼンを作成したりしていく。ここで興味深かったのが日本でいうプレゼンボードのようなものをこちらでは掛物と呼んでおり、英語を普通に話している最中に急に“Kakemono”と日本語が聞こえるのが違和感しかないことだ。最初聞いたときは「なぜ日本語？」と感じたが、日本人が日本語に英語を混ぜ合わせているよう



みんなのアイデアスケッチ

なものなのかなと思う。他にも絵文字などはそのまま Emoji と言われている。英単語化している日本語の存在はなかなか興味深いと感じる。話が逸れたが、我々は最終プレゼンに向けて役割を分担し、それぞれ進めていくことになった。私はというと日本人であるということから Kakemono の制作に割り当てられた。プレゼンボードでは視認性、デザイン性が必要となってくるため、どのように作成するかという問題が今直面している課題である。なかなか大変な作業であるが illustrator や Photoshop の技術が向上しているなど実感できる。

さて、そんな課題まみれの 1 月ではあったが、楽しいことも勿論ある。友達の誕生日パーティーに参加したのだ。友達は脱出ゲームが好きとのことで、近場の脱出ゲームが主催されている場所に行った。そこはホラーコンセプトの脱出ゲームを行っており、ホラー映画を基にしているらしい。割と造りこまれていてすごいなと感じつつ、謎解きがすべてフランス語なのでどうしたらいいのだろうと感じていた。雰囲気は相当怖いのだが、言語が分からないのでストーリーにのめりこむことはあまりできず、怖さが半減されているような気がした。言語が分からないと、ホラーも怖くなくなるというのは新しい発見である。脱出ゲームが終わると友達の家に帰り、家族たちと一緒にご飯を食べることになった。手作りのキッシュにタルトケーキやチョコレートケーキ。豪華な食材たちが食卓に並んでいた。これが海外の誕生日パーティーか、と感じつつワインを嗜みながら彼らと共に食事を楽しむ。海外の家族とともに一日を過ごすという貴重な体験をした。

このレポートを書いている分かったことなのだが、今月は本当に課題の事しか頭になく、このレポートに書くような出来事がないということだ。今後留学する人たちに伝えられることは期末に近づくともう凄く大変になるということである。ということで、今月のレポートはこのへんで切り上げてまた課題に戻ろうと思う。

駐輪場の設計で作成した 3 DCG モデル

